

市政ニコニコス

「コウノトリ夢ひこうき就航セレモニー」 コウノトリを描いたサーブ機が登場

幸せを運ぶコウノトリと幸せをよぶ4つ葉のクローバーを描いたサーブ機「夢ひこうき」が8月31日に就航を開始し、コウノトリ但馬空港でセレモニーが行われました。

「夢ひこうき」は、豊岡の環境のシンボルであるコウノトリをまちの活性化につなげようと、豊岡青年会議所が、コウノトリをテーマに航空機に描くデザインを市内の小中学生から公募したものの。最優秀作品には、豊岡小学校6年生の山本あかねさんの作品が選ばれ、その後、但馬・大阪間をはじめ、出雲、松江、福岡、奄美大島などの空港を就航する1機のサーブ機に、同青年会議所、但馬県民局および但馬空港推進協議会が経費を出し合いペイントすることになりました。



▲コウノトリが描かれた「夢ひこうき」と原案者の山本あかねさん（中央）

当日、山本さんなどを乗せた大阪空港発の「夢ひこうき」が但馬空港に到着すると、出迎えた多くの関係者から盛大な拍手が送られ、機長などに花束が贈呈されました。原案者の山本さんは、「この飛行機が、豊岡やいろいろなまちに幸せや希望を運んでくれることを願います」と笑顔で話していました。

第2とよおか作業所「愛・とよぶ」竣工式 知的障害者の就業と地域生活を支援

知的障害者通所授産施設「とよおか作業所 愛・とよぶ」が豊岡市上陰に完成し、8月28日、竣工式が行われました。

社会福祉法人とよおか福祉会が運営する本作業所は、知的障害のある方が生きがいをもって生活できるように、働く場を確保し、地域生活を支援する施設で、市内では2つ目になります。建物は、木造

瓦葺平屋建405平方メートルで、サポートルーム、交流室、相談室、医務室などが整備されています。

竣工式でとよおか福祉会の榎本三郎理事長は、「愛あふれる場所にしたいという思いを込めて愛称を決めました。第1とよおか作業所とあわせて障害者福祉の拠点となるようがんばります」と力強く抱負を述べていました。



▶「愛・とよぶ」では、さをり織りや陶芸などの作業を通して、知的障害者の就業を支援する

知見八鹿線「珍坂トンネル」貫通式

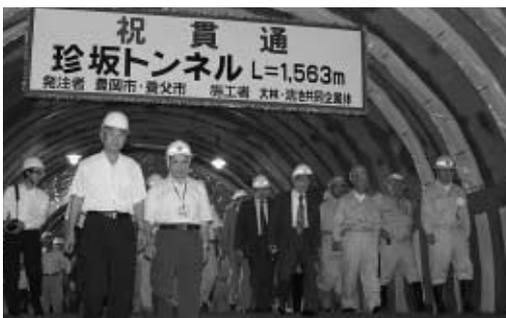
貫通記念ウォークに約500人が参加

9月9日、豊岡市日高町知見と養父市八鹿町馬瀬を結ぶ珍坂トンネルの貫通式が、トンネル坑内で行われました。

長さ1、563メートルの同トンネルは、知見八鹿線道路整備事業（総延長2、772メートル）の一環として両市が主体となって整備してきたもので、今後は県に引き継ぎ、トンネル照明や舗装工事が行われます。完成すれば県道として県下最長のトンネル

になります。貫通式では、中具市長と梅谷養父市長が貫通発破を行った後、関係者約110人が通り初めや万歳三唱などを行って貫通を祝いました。

また、式典の後に開催された貫通記念ウォークには、両市の市民など約500人が参加。参加者の一人は、「悲願のトンネルを歩いて感動しました。開通の日を楽しみにしています」と胸を躍らせていました。



▲貫通発破を終え、トンネルの渡り初めを行う関係者

市民環境懇談会を市内6会場で開催

環境問題について意見交換

8月24日から9月1日にかけて、市内6会場に市長などが出向き、「市民環境懇談会」を開催しました。

これは、現在、市環境審議会を中心に検討が進められている市環境基本条例や環境基本計画などに市民の皆さんの意見を反映させるために実施したものです。

各会場では、まず市長がコウノトリをシンボルとした豊かな環境の創造について説

明。その後、意見交換が行われ、「環境について考える人を増やすことが大切」「コウノトリだけでなく有害鳥獣対策も積極的に対応してほしい」など多くの意見が参加者から寄せられました。

なお、市では、今回、寄せられた意見をもとに、年度内を目途に条例と基本計画を策定する予定です。また、懇談会における意見は市ホームページで紹介しています。

豊岡市など大水害被災市町が国へ要望書提出 水害予防の充実を緊急アピール

8月4日、豊岡市や新潟県三条市など、平成14年から16年の間に水害を受けた全国の23市町が、水害予防の充実を求める合同緊急アピールを国へ行いました。

23市町は、水害の経験を全国の自治体で共有し、今後の水害対策に役立てようと昨年と今年に開かれた「水害サミット」に参加した自治体で構成しています。

当日は、水害サミット発起人4市町の中から豊岡市長、新潟県見附市市長、新潟県三条市市長が、安倍官房長官、北側国土交通大臣などの政府要人などに、災害に遭って初めて

対策が講じられる「再度災害防止」の観点からではなく、より効果のある予防的な対策が進められていくことに重点を置いた合同要望書を直接提出しました。

日本・モンゴル民族博物館の入館者30万人達成

認定証や記念品を贈呈し祝福

平成8年に日本最大のモンゴルに関する博物館として整備した日本・モンゴル民族博物館の入館者が8月25日、30万人に到達しました。

30万人目となったのは岡山市から訪れた上西文雄さんで、市長とともにくす玉割りをして祝うとともに、認定証や記念品の贈呈などを受けていました。

上西さんは、「今年3月に定

年を迎え、妻への慰労旅行の最中、たまたまこの博物館を見つけ、興味を覚え立ち寄りしました。

この様な記念すべき場に立ち会うことができ、本当にうれしいです」と満面の笑みでした。

場にも市旗を配置。今後は、市立の小中学校や体育・文化施設などにも配る予定です。

豊岡市の市旗を制定しました

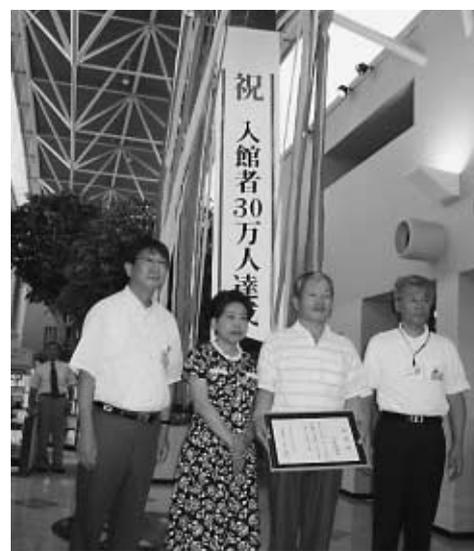
9月1日、新「豊岡市」の市旗を制定し、中貝市長と綿貫市議会議長の手によって、市役所本庁舎正面玄関上（庁舎2階）に掲揚しました。

市旗は、白の地に濃い青色で市章が染められています。同日に、各総合支所や国体競技会



▲市旗を掲揚する中貝市長と綿貫議長

▲入館者30万人目の認定証を受け取って記念撮影する上西夫妻



市勢要覧を作成

このほど豊岡市市勢要覧「とよおか豆事典」を作成しました。大きさは手に持ちやすいA5版で、ページ数は42ページです。数に限りはありませんが、ご希望の方には、無料で配布しますので、秘書広報課または各総合支所総務課に申し出てください。

